

建築・空間デジタルアーカイブス コンソーシアム設立趣意書

日本においては古来、優れた技術、意匠による建築物が作りだされてきました。また、高度経済成長期から今日にかけて、世界的にも有数と考えられる相当規模の建築活動が行われ、その中においても、建築関係者の英知、才能、美意識が傾注された優れた建築物が多く建てられてきました。

そうした建築物は、我が国の貴重な文化資産であり、今も使われ続けているものがある一方、普遍的な価値を有しながら、残念なことにすでに除却されてしまったものもあります。さらに、こうした貴重な建築物を記録した図面や写真等についても、劣化が進み消失の危機に瀕しているものが少なくありません。

一方、近年の情報のデジタル技術やネットワーク技術は、従来のような情報の保全や収集の概念を大きく変え、保全した情報の活用も含め、様々な可能性を広げており、すでに、これら技術により優れた建築物の記録等を保全しようという動きが、日本あるいは世界各地で始められてきています。

個人にとっても社会にとっても建築行為は大きな投資であり、その投資は、優れた建築文化を理解し、その蓄積の上に行われ、さらに将来に向けて新たな価値を積み重ね、我が国の資産を確実に形成していくものであることが望まれます。優れた建築物の記録を保全することは、建築文化の蓄積を図り、また実際の建築物の保全に対する認識を高める上でも不可欠な活動と考えられます。

そうした中、今般、日本政府において、民間から提供を受けた貴重な建築写真をもとに、建築・情報技術等に関する有識者の協力により、建築物の記録を保全するデジタルアーカイブスの基礎がつけられました。

本コンソーシアムは、日本の建築界の総意と、大学、美術館等の学術研究機関、IT やメディアなど幅広い分野の参画を得て、このアーカイブスの運営を引き継ぎ、他の保全活動を行う様々な主体とも連携しつつ、さらに充実してゆくために設立するものです。本コンソーシアムは、その活動を通じ、過去からの資産を次世代に伝え、建築文化の進展を図り、豊かな建築空間、景観、環境の形成に寄与してまいります。